

日ごろの災害への備えと災害後の対応

日ごろの備え

行政の支援には限りがあります。

被害を最小限にするために、ひとり一人が、あるいは家族や地域が協力して日ごろから災害に備えておきましょう。

屋根・雨どい

- アンテナがぐらついている
- トタン板がめくれている
- 瓦にひび・割れ・剥がれがある
- 雨どいがぐらぐらしている

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿等、落下する危険がある

外壁

- 基礎に亀裂がある
- モルタルの壁に亀裂がある

窓

- 窓枠にがたつきがある
- 雨戸にがたつきがある
- 窓ガラスの飛散対策をしていない

家屋の耐震診断を行うことも大切です

消火器や水バケツの設置も大切です



チェックが付いた項目は、補強や修理・掃除等を行って災害に備えましょう。

ブロック塀

- 鉄筋が入っていない
- 傾いている
- 破損している箇所がある

その他

- ガスボンベが固定されていない
- (店等の)看板のぐらつきがある
- 倒れそうな植木や石塔がある
- 庭木に添え木をしていない
- 道路側溝に堆積物がある

室内

- 倒れそうな家具が固定されていない
- 家具の上に落下しやすいものがある
- 玄関、廊下に大きな家具や荷物がある
- ストープに自動消火機能がついていない
- 寝室には倒れると危険な家具がある
- カーテンの防災処理がされていない

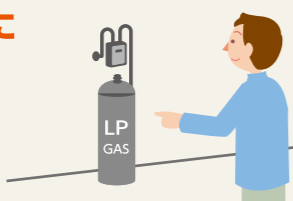
寝室にはスリッパと笛、懐中電灯を備えておくことが重要です。(懐中電灯は携帯電話のライトでも代替することができます)



災害後の安全確認

プロパンガスボンベに異常はないか?

- ・ガスの臭いはないか?
- ・パイプは切れていないか?
- ・確認する際、火気は厳禁!



ガソリン・灯油等の漏れ出しはないか?

- ・ガソリンや灯油の臭いはないか?
- ・発見したら周囲へ注意を呼びかけましょう。
- ・必要におうじて消防署へ通報しましょう。



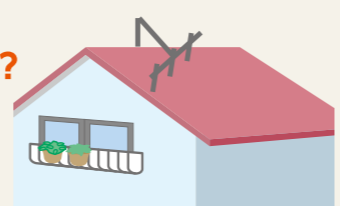
電線に断線はないか?

- ・近づかないようにしましょう。
- ・電力会社へ通報しましょう。
- ・絶対に触らないでください。



屋根瓦やアンテナ等、頭上に危険物はないか?

- ・屋根の上の上には登らず、遠くから確認しましょう。



罹災証明書の申請について

罹災証明書は、災害により、下野市内で家屋等に損害を受けた方に対し、申請によって交付するものです。行政の支援・救済措置や自身が加入している各種保険金請求等の際に必要な場合があります。

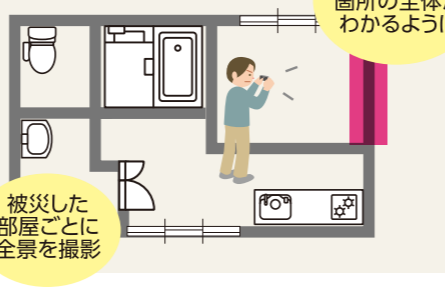
住まいが被害を受けたときに最初のこと。



カメラ・スマホなどで4方向から撮影。



被害を受けた部屋・箇所は全て撮影しましょう。



被害を受けた箇所の全体がわかるように

浸水の高さがわかるように

被災した部屋ごとに全景を撮影

Jアラートによる緊急情報と自主防災組織

国民保護 (出典：内閣府)

外敵から我が国に対する外部からの武力攻撃や大規模テロ等から、国民の生命、身体及び財産を保護すること等を目的とした「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律」(国民保護法)が施行されました。

弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合には、Jアラートを通じて緊急情報を流します。

- ① 屋外スピーカー等から国民保護サイレンというメッセージが流れます。
- ② 携帯電話やスマートフォンに緊急速報メール等が届きます。

屋外にいる場合
爆風や破片等を避ける

近くの建物の中
(できれば頑丈な建物) または **地下へ**

もしも、近くに建物がない場合は

物陰に身を隠す
または **地面に伏せ頭部を守る**

屋内にいる場合
爆風で割れた窓ガラス等を避ける

窓から離れる
または **窓がない部屋へ**

国民保護ポータルサイト
武力攻撃やテロ等から身を守るために

事前に確認しておきましょう。
http://www.kokuminhogo.go.jp/gaiyou/shiryu/hogo_manual.html

— ミサイル落下時には、こちらから政府の対応状況をご覧になれます —

首相官邸
ホームページ
www.kantei.go.jp/

首相官邸
Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報
@Kantei_Saigai

自主防災組織

- ・災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために地域住民が協力して活動するための組織です。
- ・平常時は災害に備える活動を、災害時は被害を最小限にするための活動を行います。
- ・また、災害後は自主防災組織と地域住民が協力して取り組むことが大切です。

平常時の活動			災害時の活動		
防災訓練の実施や防災知識の普及啓発等の活動を通じて、災害に備えます。			消火活動や救出活動、避難の誘導をいち早く行います。また、避難所の運営等の活動を行います。		
自力で避難や移動が困難な方等の確認	要配慮者等の把握	地域の防災施設・避難所の確認	初期消火	救助・救出活動	情報の伝達
防災知識の普及啓発	避難訓練の実施	地域の安全点検	避難所の運営	食料、物資の供給	避難の誘導

自主防災組織の重要性

多くの犠牲者を出した平成7年1月の阪神・淡路大震災では、がれきの下から救出された人のうち約8割が家族や近所の住民らによって救出され、普段から近所や地域社会とのつながりが重要であることが認識されました。